



西公民館と西児童センターの分離

佐藤 剛太

問 西児童センターの分室建設の進捗状況はどのようになっているのか伺う。

健康福祉部長 建物の実施設計は、おおむね完了しています。9月中旬に施工業者を決定の上、10月に着手し、来年3月には完成する見込みです。

問 工事に伴い工事車両などが増加すると思われるが、利用者への安全対策はどのようになっているか。

子ども福祉課長 西小学校児童の登下校時間帯や西児童センターを利用する児童が多い時間帯の出入りを控えます。また、作業敷地内には、交通誘導員の配置や建設工事箇所をフェンスで覆うなどの安全対策に努めます。

問 建設される分室の利用者の定員は何名になるのか。

子ども福祉課長 利用定員40名のクラブ室を2室整備して、80名とする予定です。

問 西児童センターの利用者数の増加や敷地面積などを考えると、今の施設には限界があることか

ら、西公民館と西児童センターを別の場所に分離させることが必要ではないか。

市長 公民館や児童センターの利用実態を十分検討しています。現状を考えると本当に厳しい状況ということは十分認識しています。また、駐車場が少ないという多くの意見もありますので、新年度に向けてどうあるべきか、あるいは用地の問題もありますので、それらについて具体的な検討を進めます。

子育て拠点施設へ活用を

問 分離した場合、西小学校に近い西児童センターは、西部地区の子育て拠点施設として活用すべきではないか。

市長 学校の近くにある児童センターを有効活用し、各学区ごとに子育て支援や子どもの拠点をつくっていききたいので今後検討したいと思います。

◎その他の一般質問

・若い世代の市政への関心
・ハナトピア岩沼の利活用



子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた教育指導方法

布田 一民

問 アクティブラーニングの推進で、学習指導要領の改訂が諮問され、昨年は、教育課程企画特別部会において「論点整理」が行われている。背景を解決するためにアクティブラーニングが答申として言及されたが、変化を踏まえた指導人の必要性を伺う。

教育長 授業については、十分に意を用いて、その方向に進んでいく必要があると思います。

問 学ぶ姿勢や態度が受動的でなく、能動的に行うことが必要である。これからの時代は、知識を詰め込むだけでなく、知識を使い新たな問題を発見し、解決し、今までにない「新しい知識を創造する力」が求められる。そのためには、アクティブラーニングで身に付く力が必要ではないか。

学校教育課長 これまでも対話形式なり、グループなりの学習対話形式を行っています。今後さらさらに大切にしていきたいと考えます。

問 発達段階や教科、学習面異なるが、教員の授業のスキルの高さである「きちんと教える」「わかりやすく教える」「反復して教える」を自覚しつつ「学び合い」や「自己解決」をバランスよく授業に取り入れるべきではないか。

大学入試も大きく変化！

問 今後大学入試センター試験が廃止となり「高等学校基礎学力テスト」と「大学入学希望者学力評価テスト」が導入され「思考力・判断力・表現力」が試される。個別の選抜では「主体性・多様性・協働性」が試され、マークシート方式から記述方式への大学入試改革の内容が示されている。2020年から始まるので、現在の中学2年生が現役で受験をすることに。アクティブラーニングの手法を取り入れ、対応すべきではないか。

市長 入試制度が変わり、自分の思考力が試されていく中で、岩沼市も準備をする必要があると思います。一つの手段として捉え考えます。